こんにちは！OSGS プログラム後期メンバーの小林優太です。このレポートでは、OSGS プログラムの活動内容を、自分自身の経験をもとにまとめました。僕が紹介したい活動は主に４つです。

１　アメリカの大学の授業

OSGS プログラムでは、グレッグ先生の授業を受けます。この授業は学生自身のコミュニケーションを大切にし、フィンドレ―大学でのシンポジウムに向けてスライドや、プレゼンテーションの仕方などを教えてもらい、伝える力を養いました。

２　シンポジウム

日本時間の深夜（アメリカ時間の昼）にシンポジウムが開かれました。僕は 2000 年代のアメリカの音楽がどのように社会情勢の影響を受けてきたかについて発表しました。このような大学での正式なプレゼンテーションは初めてだったので、とても緊張しましたが、楽しむことができました。Zoom で行われ、眠くなることもなく、まるでその場にいるかのような臨場感に包まれました。後悔しているのは、最後の質疑応答の際に答えることができなかったことです。その問い自体に対する答えは見つかりましたが、すぐに文に起こすことができず、適切な対応ができませんでした。この悔しさをばねに、自身の英語力、コミュニケーション能力を磨いていきたいです。

３　パートナーとの活動

OSGS プログラムでは、メンバー一人ずつにフィンドレ―大学のパートナーが配置されます。3 月末、4 月初めに家や近所をビデオまたはライブで紹介する Introductory Tour というものをしました。僕にとっては初めての動画作成でした。iPad で意外と簡単に動画を作成できることが分かり、良い経験となりました。自分が作って面白いのはもちろんですが、相手にとって面白いと思ってもらえることが大切だと思いました。

４　埼玉県親善大使の活動

埼玉県親善大使として、ふじみの国際交流センターを訪れました。そこでは、来日した外国人の方に日本語を教えたり、相談に乗ってサポートをしたりしています。ビザや、日本語検定、国籍など、外国人の方が日本で住むにあたっての大変さを学びました。例えば、職場でのいじめや、薬物の犯罪への誘いなど、悲惨なケースも聞きました。外国人の方が日本に住むにあたってこのようなことはあってはいけないと思います。その方はふじみの際交流センターの

方たちが悲しむだろうと思い、ふみとどまったそうです。ふじみの国際交流センターに通っていたおかげで最悪のケースは免れたと思います。外国人の方にとって「つながり」が育まれる大切な場所だと考えました。

　また、タイ人の方に日本語を教える手伝いをさせてもらいました。改めて日本語というのは難しいということを実感しましたが、人に教え、支えあう大切さを学びました。非常に貴重な体験でした。

　さて、そのような OSGS プログラムの活動を進めていくなかで、自分が前回のレポートよりできるようになったのは、

・より積極的に活動に取り組めた
・プレゼンテーションを見越して、授業の宿題にしっかり取り組めた
・日米両国の音楽の特徴を探っていくなかで、そのつながりや関係に気付けるようになった

ことです。また、できなかったことは、

・シンポジウムでの質問への回答
・プレゼンテーションの見せ方へのこだわり

です。

　このように、OSGS プログラムは、英語のレベルはもちろん、あらゆることに

対する意欲や向上心を高めてくれます。そして、自分の足りないことは何か、まだやれることはないか考えるチャンスにもなります。僕にはまだまだ課題が残っていますが、後期メンバーとして、これからも頑張ります。